

金沢市内で発見されたヤマコウモリの冬眠例

上馬 康生 石川県白山自然保護センター
南 他喜男 石川県兼六園管理事務所

NOTES ON THE HIBERNATION OF THE JAPANESE LARGE NOCTULE *NYCTALUS AVIATOR* THOMAS, 1911 IN KANAZAWA CITY

Yasuo UEUMA, *Hakusan Nature Conservation Center*
Takio MINAMI, *Kenrokuen Office, Kanazawa*

はじめに

コウモリの冬眠場所については、洞窟棲の種については比較的発見されやすい（県内では尾口村尾添の三ツ又発電所積雪期用隧道のキクガシラコウモリなど）が、森林棲の種については発見されることは極めて稀である。今回、森林棲の種であるヤマコウモリの冬眠場所が、金沢市の兼六園で発見されたので報告する。なお、ヤマコウモリの冬眠場所については県内で初めての発見であり、国内でも前田（1973）が報告している北海道札幌市での例があるだけである。また、県内での生息の記録は北国新聞社白山総合学術調査団（1962）、松田・熊野（1965）にあるが、共に採集記録、標本等の確認で

きる記録でなく、採集年月日や場所など詳細は不明であり疑問視されていた。

この報告をとりまとめるにあたり、採集に際してお世話になった金沢大学理学部生物学科の田中敏之氏に、またコウモリの計測についてお世話になった岐阜歯科大学の前田喜四雄氏に感謝の意を表します。

発見場所及び発見の経緯

ヤマコウモリが発見されたのは昭和 59 年 3 月 13

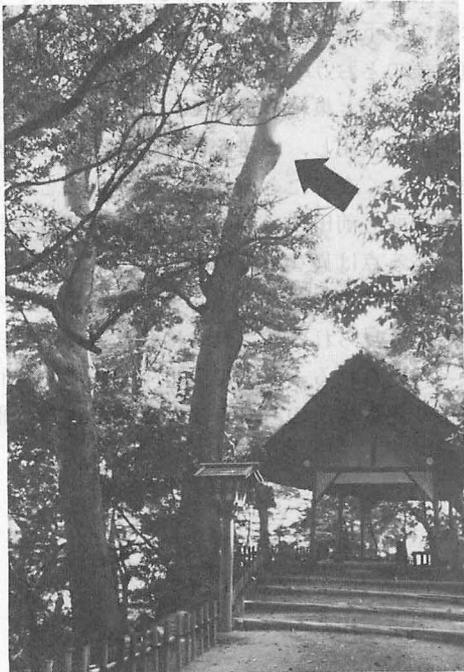


写真1 冬眠場所があったタブノキ（矢印部分から樹洞のある枝が出ていた）

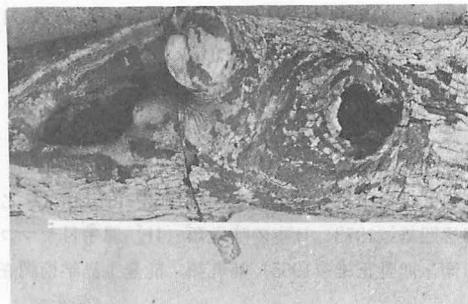


写真2 樹洞の出入り口の穴

表 ヤマコウモリ採集個体測定値 (mm)

個体番号	前腕長	後足長(爪なし)	後足長(爪あり)	下腿長	頭胴長	尾長	耳長	耳珠長	第3指長	第5指長	体重
1	62.5	13.5	15.5	25.0	95.5	56.5	20.0	8.0	113.5	68.0	45.5g
2	60.0	14.0	16.0	24.0	94.5	58.5	20.0	8.0	109.0	65.5	34.5g
3	60.0	14.0	16.0	24.5	96.0	53.0	18.5	8.5	106.0	65.0	38.5g
個体番号	頭骨全長	頭骨基底全長	上顎歯列長 (切歯~臼歯)	上顎歯列長 (犬歯~臼歯)	吻幅	臼歯間幅	乳様突起間幅	脳函幅	脳函高	下顎長	
1	21.1	21.1	9.5	8.35	8.85	10.3	13.8	11.2	11.05	17.05	
2	20.6	21.0	9.3	8.2	8.25	10.25	13.6	11.0	10.9	16.85	
3	(未取出し, 未測定)										
個体番号	下顎歯列長 (切歯~臼歯)	眼窩間幅	頬骨弓幅								
1	9.95	5.9	14.7								
2	9.75	6.4	14.55								
3	(未取出し, 未測定)										

日で、場所は金沢市の兼六園内にある山崎山である。兼六園は市街地のほぼ中央部に位置する江戸時代に造られた庭園である。園内には植栽された樹木の他に自然の林も一部残されており大木が多い。特に山崎山周辺は、ケヤキ、タブノキ、トチノキ等の大木の林となっている。

兼六園では、冬期の雪害による折損木や、その他枯枝等の伐採作業が3月上旬に行なわれたが、その際に山崎山の御亭横のタブノキ(樹高約20m, 幹周255cm, 枝張約15m)の地上約10mの位置(写真1)から南方に張り出していた枯枝(長さ約7m, 樹洞部分の直径39cm)を切り落したところ、折れた枝の内部からコウモリ3頭がころがり出てきた。また樹洞内にはさらに3頭おり、計6頭が発見された。この枝には写真2のように2か所の穴(17.5cm×12cm, 32cm×10.5cm)が開いており、これらがコウモリの出入口と考えられる。また樹洞の直径は29cm, 長さは125cmであった。発見された6頭の内5頭は雄, 1頭は雌であった。雄3頭は枝の落下時に死亡し、標本として採集したが、他の3頭はその後飛び去っている。採集個体の計測値は表のとおりである。

前田(前出)によると、ヤマコウモリの生息場所として樹洞と巣箱をあげており、前者は大きさから大樹洞と小樹洞に分けている。その中で冬眠には大樹洞を使用し、雌雄が群れでいることを報告している。また木が枯れてからは、その樹洞を冬眠に使用しなくなったと報告し、その原因として木の保温性と保湿性によるものと推定している。今回の冬眠場所も前田の分類の大樹洞であり、雌雄が共に見つかった点も同様であるが、枯れた枝の樹洞である点は異なっている。

兼六園周辺には、金沢城跡、本多の森など自然の林がよく残されたところが多く、ウラジロガシ、スダジイ、タブノキ、ケヤキなどの大木が多く、樹洞もよく見られる。これらは森林棲のコウモリにとっては、市街地で残された数少ない好適環境であると考えられる。今までコウモリの調査は行なわれておらず、生息状況は不明であるが、今後の調査により冬眠場所のみならず、夏期の生息や他の種が発見される可能性が大きい。

文 献

北国新聞社白山総合学術調査団(1962) 白山, 74, 北国新聞社
 前田喜四雄(1973) 日本の哺乳類(II) 翼手目ヤマコウモリ属, 哺乳類科学, 27, 1-28
 松田衛・熊野正雄(1965) 哺乳類, 能登半島学術調査書, 209, 石川県